

## 第10回 北九州市孤独・孤立対策等連携協議会 会議録

### 1 開催日時

令和7年10月23日(木) 15時00分～17時00分

### 2 開催場所

ウェルとばた12階 121・122会議室

### 3 出席者等

#### (1) 参加団体(敬称略、五十音順)

- ◆社会福祉法人北九州いのちの電話
- ◆北九州市障害者基幹相談支援センター
- ◆福岡県協力雇用主会
- ◆公益財団法人 北九州国際交流協会
- ◆公益財団法人健和会
- ◆北九州市子ども・若者応援センターYELL
- ◆社会福祉法人北九州市社会福祉協議会
- ◆北九州市ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」
- ◆NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
- ◆NPO法人抱樸
- ◆一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会

#### (2) 行政関係者

保健福祉局地域共生社会推進部長、地域福祉推進課長、  
地域福祉推進課孤独・孤立対策担当係長、地域福祉推進課主任

※議事に記載している意見等の標記について

- ◆…参加団体
- ◇…行政

### 4 議事内容

#### (1) 新規加入団体について

##### 【説明】

◇8月の協議会で、協議会とフードサポートを一体的に行っていくことについて提案し、特に異論がなく、新たに「社会福祉法人グリーンコープ」「公益財団法人健和会」「一般社団法人コミュニテ

「イシクタンク北九州」の3団体が本会のメンバーに加わったため、要綱を改正する。

## (2) 協議会の取り組みについて

### 【説明・主な意見】

- ◇令和6年2月2日の内閣府の「孤独・孤立対策推進法の施行について(通知)」により、本協議会は官民連携プラットフォームであるため個別ケースにおける個人情報を扱うことはできない。個人情報を用いた個別支援については、重層的支援体制整備事業で行う。
- ◆個人情報を用いず、支援についてアドバイスをもらうことは本協議会で対応できるか。
- ◇個人情報を用いず、支援についてそれぞれの専門分野から意見をもらうことは可能。

## (3) チャットツール「Slack」(スラック)について

### 【説明】

- ◇前回、チャットツール導入の提案があった。  
チャットツールを使うことで、各団体からイベントなどの発信ができ、気軽に他の団体にアドバイスなどをもらうことができると考えているが、利用については各団体で判断して頂く。
- ◆提案団体から説明

## (4) ひきこもり支援について

### ○精神保健福祉センターから説明

- ・令和2年から国がひきこもり支援施策の推進を進めており、関係機関による支援や支援の機運醸成のため、市町村プラットフォームの設置、運営を進めるべきとされている。
- ・ひきこもりの問題と孤独・孤立の問題は切っても切り離せないものであるため、新たにひきこもりのプラットフォームを作るのではなく、本会がひきこもりのプラットフォームを兼ねることとしたい。

### 【主な意見】

- ◆ひきこもりの子も支援してきた。  
最初はひきこもっていたが、他の人が働いている姿を見て外に出て働けるようになっていく。  
社会で自信を持たせるという意味で、協力雇用主も本会に加入させて欲しい。
- ◇本協議会は相談支援を行う団体が加入しており、協力雇用主が本会に加入することは想定していないが、何らかの形で連携できると思う。
- ◆本協議会では、「連携が必要」といった漠然とした話ではなく、具体的な話をしていく必要があると思う。何が孤独・孤立対策の障害になっているのかを考えることで、ニーズを引っ張り出し、それに対する解決策を考える協議会にしていくべきである。
- ◆突然議題が出ても、経緯や内容が分からないが、Slackなどで、お膳立てがあると共通理解ができる。

そして、年に3回ではなく、「じゃ今度集まろう」という感じで展開しても良いと思った。

◇ひきこもりの関係のプラットフォームを新しく作るよりも、本会で一緒にやっていくってということについて、一応そういう方向でよろしいか。

特にご異論なければ、そうさせて頂きたいと思っている。※異論なし。

◆現在、精神保健福祉センターで最も相談が多いのは家族からか、それとも民生委員からか。

○ひきこもりの方のご相談について、最初の窓口がひきこもり地域支援センター「すてっぷ」ということが多いが、やはり家族からの相談が一番多いと思う。